

基準 8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①: 教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到係る状況】

以下で述べるような教育の質保証やその改善・向上を図る取り組みを、全学および各学部・研究科等で行っている。

(1) 学生が身に付けた学習成果に関する自己点検・評価

(1-a) 全学的な自己点検・評価

全学的な教育に関する自己点検・評価及び検証は、教育・学生担当理事の下に教育委員会と教育室が中心に行っており、教育委員会では、各部局の代表者から構成する教務専門委員会と教育質保証専門委員会を通じて（**資料 8-1-①-A**）各部局における教育活動の状況を把握し、教育室は、「中期目標・中期計画進捗管理システム」や教育委員会等を介して、全学的な教育活動状況の分析・評価を行っている。

なお、全学的な自己点検・評価の推進や認証評価などについては、学長を本部長とした「中期目標・中期計画実施本部」（**資料 9-3-①-C**【後掲】）が評価を支援する全学組織「評価室」（参照資料 8-1-①-ア）と連携しながら対応している。

(1-b) 各学部・研究科等における自己点検・評価

中期目標・中期計画の中で教育に関する到達目標を設定し、教育委員会からの意見や現状分析を踏まえて、目標を達成するためのアクションプランを年度ごとに策定するとともに、評価委員会等を設置し、教育・学習活動等の成果について自己点検・評価に取り組んでいる（参照資料 8-1-①-イ）。また、年度ごとに作成する自己点検・評価書は、学外有識者による客観的な検証を受け、その結果を次年度以降の計画策定に活かし、教育改善を図っている。なお、教育活動に関する状況を、「中期目標・中期計画進捗管理システム」（別添資料 9-3-①-4【後掲】）を介して毎年3回教育室に報告している（**資料 8-1-①-B**）。

(2) 教育の質の改善・向上を図るための体制及び機能状況

(2-a) 全学的な体制・機能状況

(1) で述べたような自己点検・評価結果に基づき、教育・学生担当理事は、主に教育委員会を通じて各部局に対して改善に必要な措置を講じている（**資料 8-1-①-B**）。その際、教育・学生担当理事は、必要に応じて、全学的な教育に係る調査及び企画や職員の能力開発等を業務とする「全学教育機構高等教育開発室」（参照資料 8-1-①-ウ）に諮問や依頼を行うとともに、学長直下のIR室（参照資料 8-1-①-エ）にデータの分析を指示し、その結果を教育研究評議会へ報告している。

また、学長が、さらなる改善の必要があると判断した項目についてはインセンティブ（評価反映特別経費）（別添資料 8-1-①-1）を通して、教育の質の改善・向上を継続的に図っている。これにより、簡易版ティーチング・ポートフォリオや授業点検改善報告書の作成率向上など、教育改善に結びついている（**資料 8-1-①-C**）。

(2-b) 各学部・研究科等における体制・機能状況

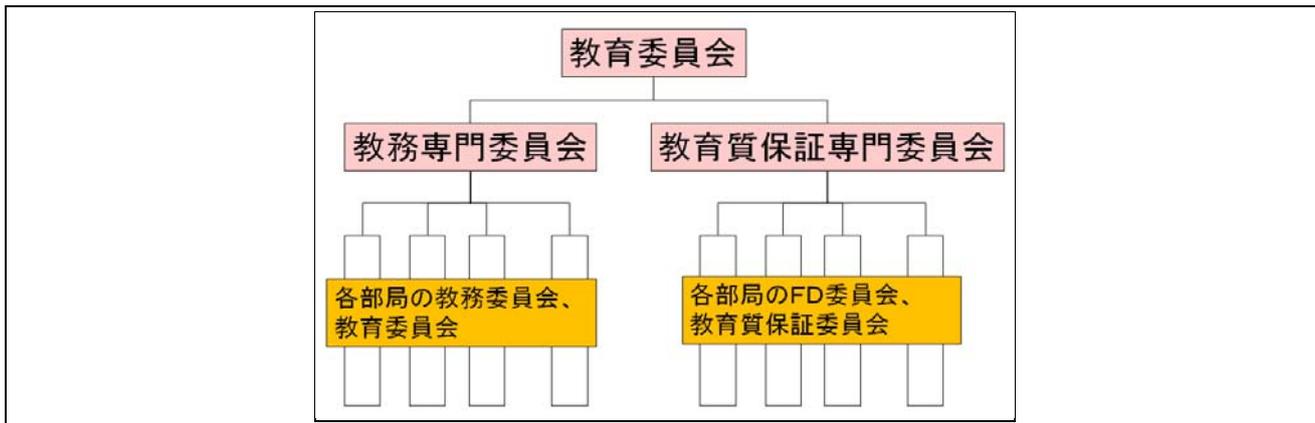
自己点検・評価結果に基づき、教育委員会の主導の下、教務専門委員会委員や教育質保証専門委員が中心となり、シラバスの組織的な点検、GPAに基づく学習成果検証、「佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン」及び「佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン」に基づいた教育改善活動などを行っている（別添資料8-1-①-2）。

以上で述べた全学的な教育活動の状況及び学習成果に関する自己点検・評価及び教育の質の改善・向上を図るための体制・仕組みを（資料8-1-①-D）及び（資料8-1-①-E）に示す。

(3) 教育活動の情報収集体制

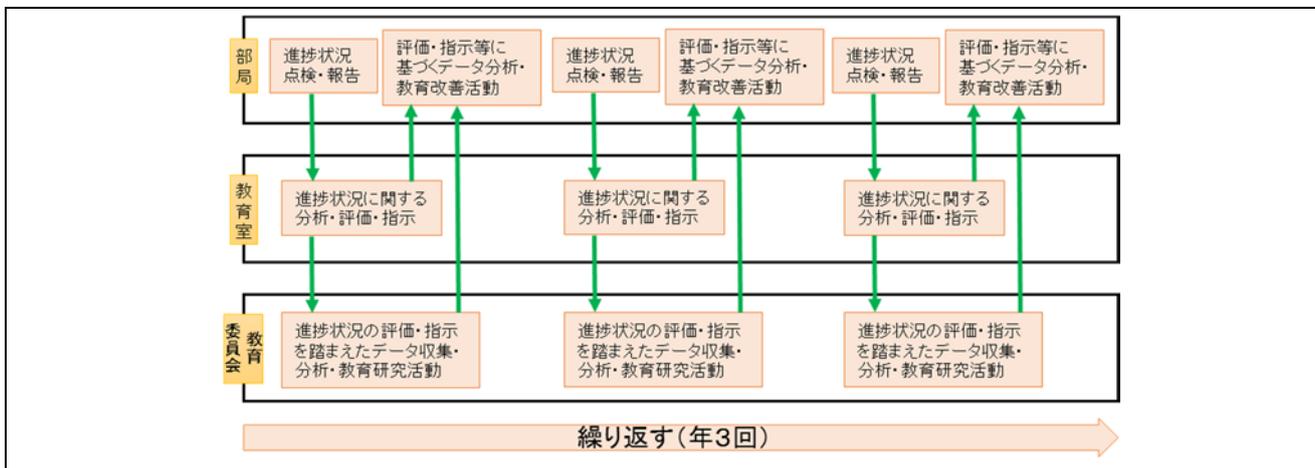
国立大学法人佐賀大学法人文書管理規程（参照資料8-1-①-オ）により、教育及び研究関係文書について保存期間と保存期間満了時の措置を定め、適正に管理している。教育活動の状況及び学習成果に関する資料・データ等は、「中期目標・中期計画進捗管理システム」（別添資料9-3-①-4【後掲】）、「大学情報基礎データベースシステム」（参照資料8-1-①-カ）、観点6-1-①で述べた「ポートフォリオ学習支援統合システム」などで、収集・蓄積している。各部局の評価担当者または教務担当者は、これらの蓄積されたデータの参照やダウンロードが可能であり、部局の自己点検・評価などに活用している。

資料8-1-①-A： 教育委員会と各部局委員会との関係



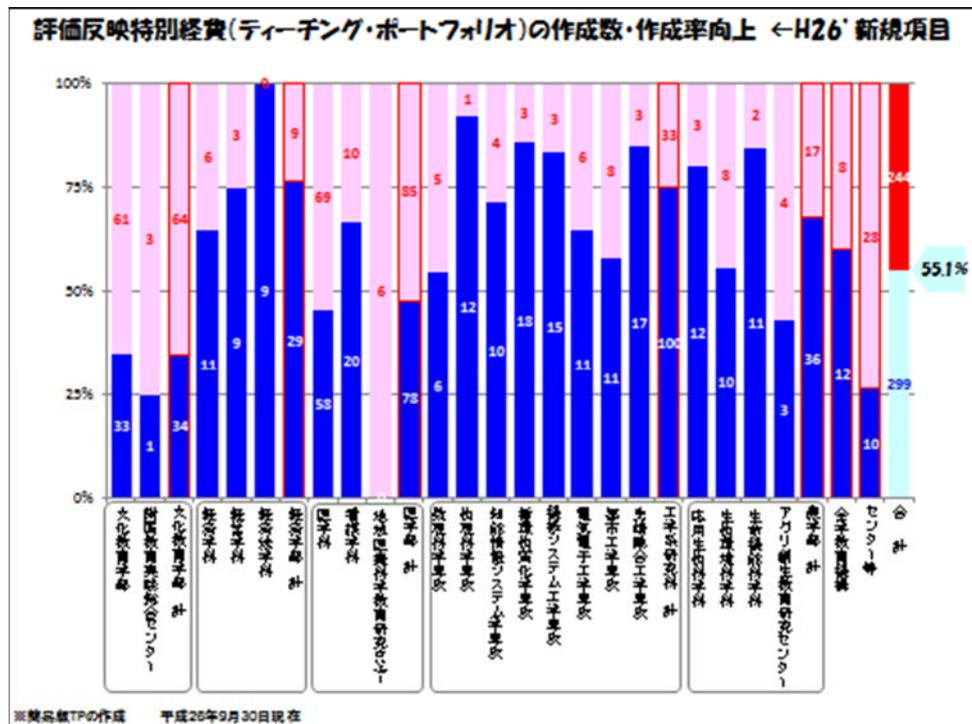
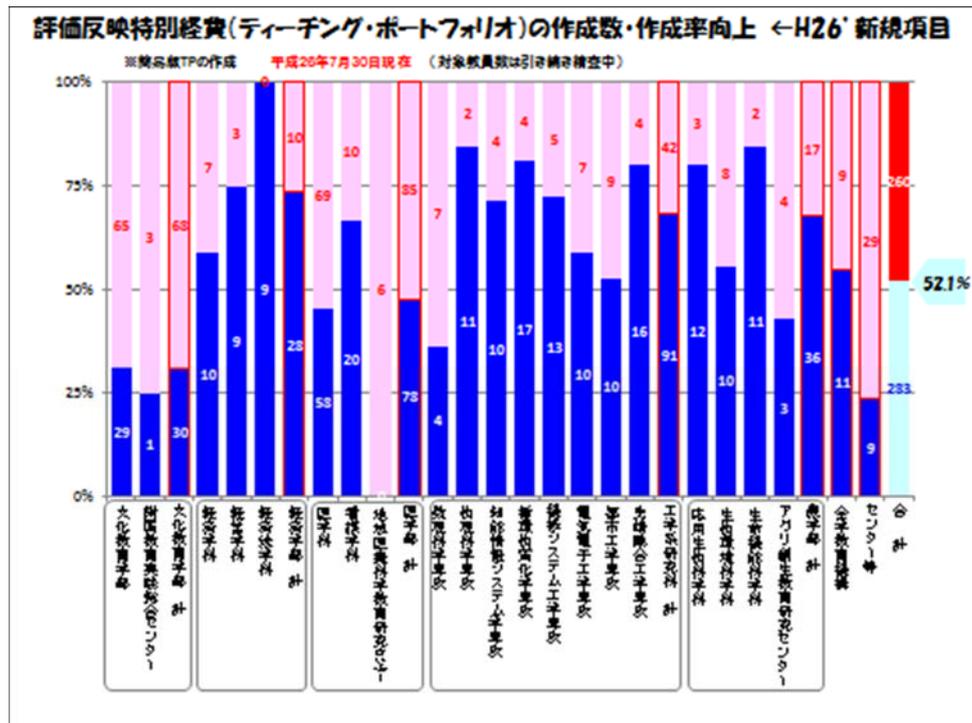
(出典：事務局資料)

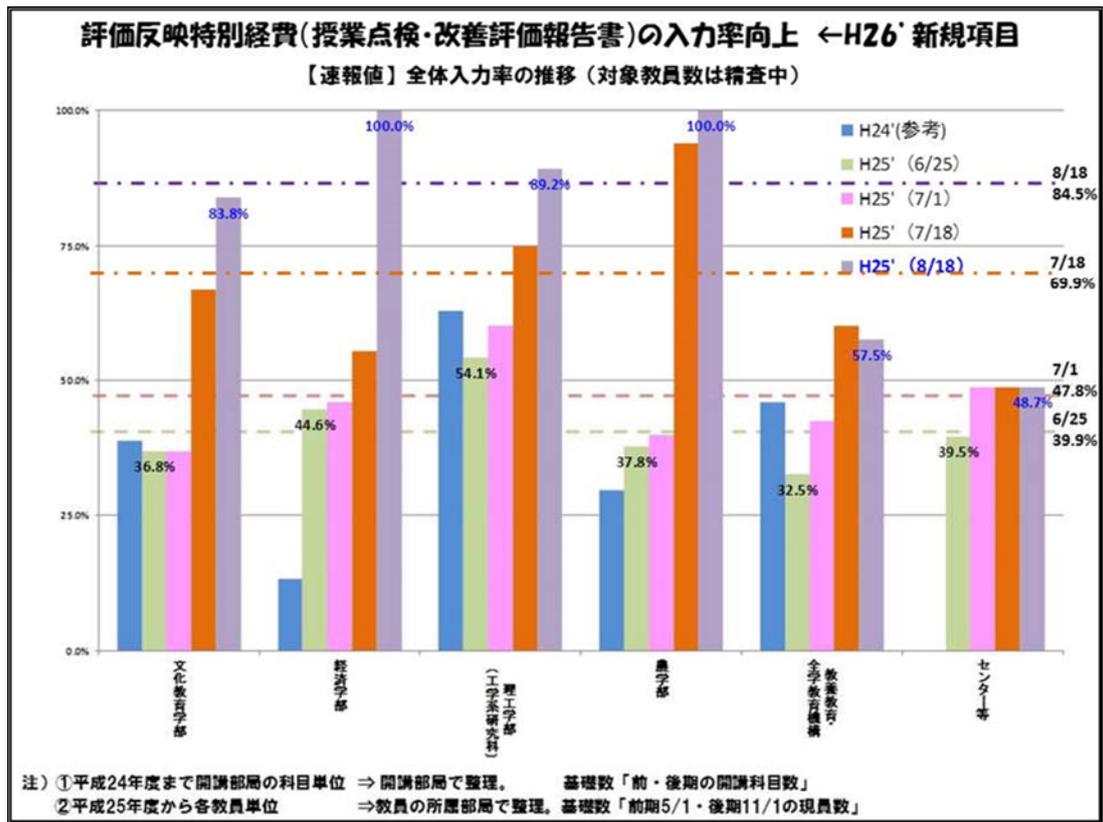
資料8-1-①-B： 教育改善活動体制



(出典：事務局資料)

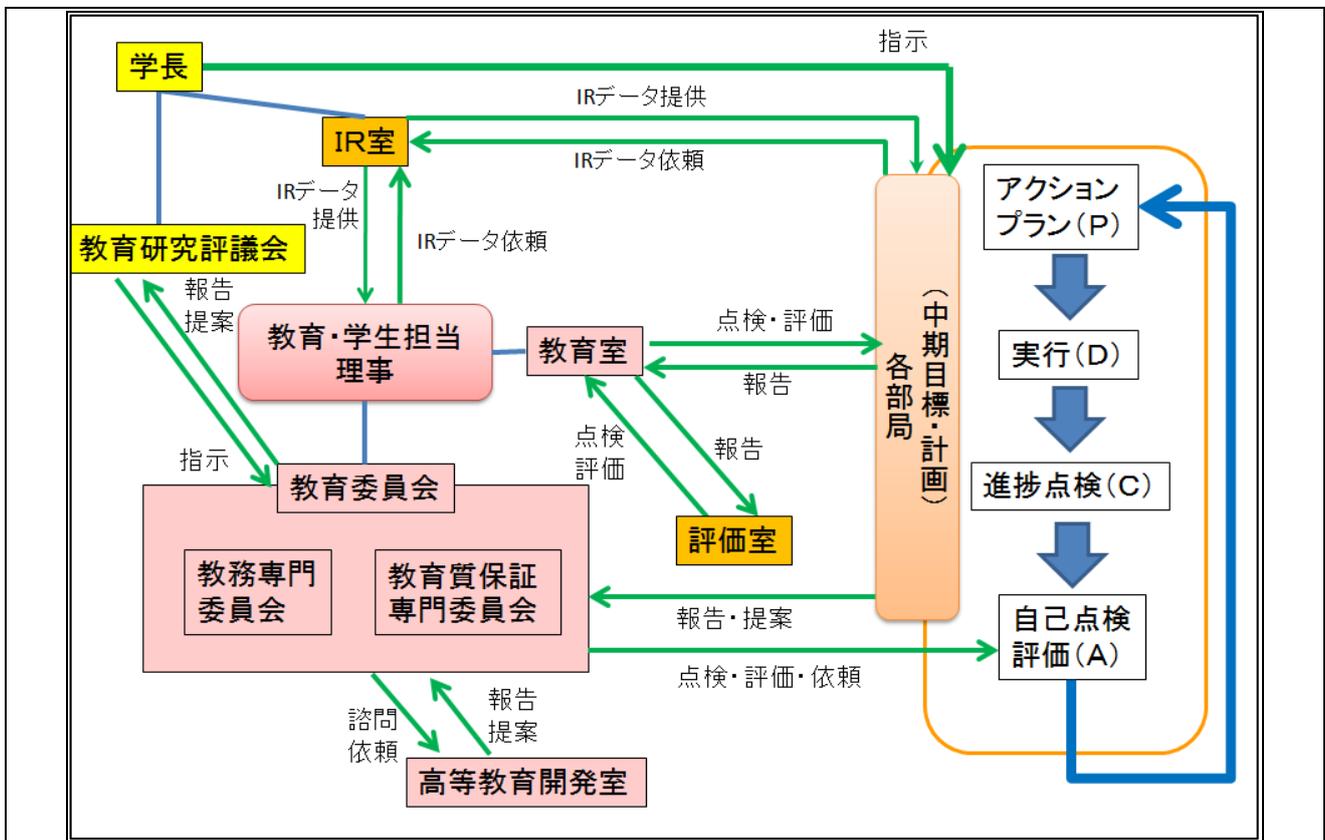
資料 8-1-①-C : 簡易版TPおよび授業点検改善報告書入力率報告





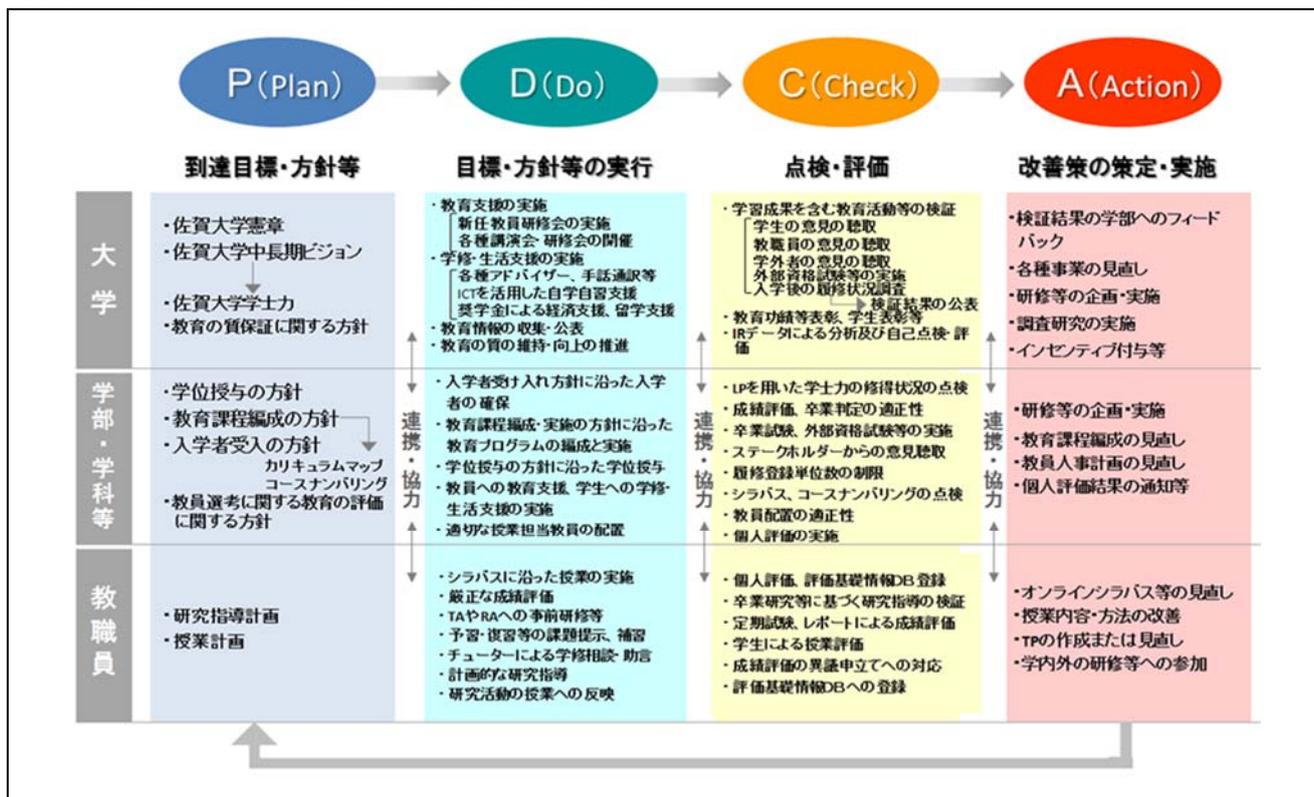
(出典 IR室資料)

資料 8-1-①-D: 教育の内部質保証体制図



(出典 事務局資料)

資料 8-1-①-E : 教育の内部質保証の取組



(出典 事務局資料)

別添資料 8-1-①-1 : 平成 26 年度評価反映特別経費に係る業務の評価の配分基準等について

別添資料 8-1-①-2 : 佐賀大学教育委員会運営内規

参照資料 8-1-①-ア : 国立大学法人佐賀大学評価室設置規則 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/626.html>)

参照資料 8-1-①-イ : 佐賀大学の評価について (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)

参照資料 8-1-①-ウ : 佐賀大学全学教育機構組織運営規程 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/815.html>)

参照資料 8-1-①-エ : 国立大学法人佐賀大学インスティテューショナル・リサーチ室設置規則

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/818.html>)

参照資料 8-1-①-オ : 国立大学法人佐賀大学法人文書管理規程 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/762.html>)

参照資料 8-1-①-カ : 国立大学法人佐賀大学大学情報基礎データベースシステム管理規程

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/654.html>)

【分析結果とその根拠理由】

教育・学生担当理事が統括する「教育委員会」と「教育室」を中心として、教育活動の状況及び学習成果に関する自己点検・評価を行っている。また、自己点検・評価結果に基づき、教育・学生担当理事や学長が、教育の質の改善・向上を図るために必要な策を、直接的あるいは教育委員会を通じて講じられるような体制が整備されている。この体制の下で、シラバスの組織的な点検、GPAに基づく学習成果検証、簡易版ティーチング・ポートフォリオや授業点検改善報告書の入力率の向上など、教育の質の向上や改善に結びつけられている。

これらのことより、教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能している。

観点 8-1-1-②： 大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

学生の意見聴取は、全授業科目を対象にした「学生による授業評価」(別添資料 8-1-②-1) や在校生、卒業予定者を対象とした満足度、到達度、学習環境等に関するアンケート調査(別添資料 6-1-②-2【前掲】)を通じて実施している。また、観点 7-2-②、観点 7-3-①で記述した、「学生なんでも相談窓口」、「学生カウンセラー相談窓口」、「オフィスアワー」、「チューター（担任）制度」等を通じて直接的に意見を聴取している。特に、学生からの授業評価結果に対しては各授業担当教員が評価結果の検証と改善目標を記載した授業点検・改善報告書を作成し、授業改善に活かしている(資料 8-1-②-A~C)。なお、平成 26 年度から医学部では、教育委員会に学生が委員として加わり、教育に学生の意見を反映させている(資料 8-1-②-D)。

教職員の意見については、主に各種委員会や会議を通じて聴取している。全学的な教育活動については、主に教育委員会を通じて全部局から意見聴取が行われ、教育改善に活かされている。また、必要に応じて当該組織が全学にパブリックコメントを求めている。実際に、全学教育機構の発足に際して、インターフェース科目や教養教育科目などのカリキュラム策定に反映されている(別添資料 8-1-②-2)。

資料 8-1-②-A： 授業点検・改善報告書例

佐賀大学 授業点検・改善	
氏名	
年学期	2014年度 前学期
<p>●授業の優れていた点【授業全体／科目別】</p> <p>TBL型講義の「工業数学」では予習時間が学部・全体平均を大きく上回っている。また、復習中心の「線形数学」では、復習時間が学部・全体平均を大きく上回っており、講義の狙いがある程度達成されている。</p>	
<p>●授業の改善を要する点【授業全体／科目別】</p> <p>「工業数学」のコメントでは、「教員がいなくても成り立つ講義である」というものがあったが、これは主体的な学びを促すTBL型講義の特徴ともいえる。ただし、このように感じさせているのは、講義の背景にある教員の努力(全体の講義設計、事前課題の準備、小テスト・確認テストの準備・採点など)が学生に伝わっていないためでもある。これまでは、授業の背景にある苦勞をなるべく学生に見せないように心がけていたが、これも過ぎると、私以外の人に対して、その背後にある苦勞を理解しようとしないうる学生を育ててしまう恐れがある。特に教員を目指している学生であれば、このことは非常に問題だと思うので、講義を設計する上でのポイントや苦勞などもときどき学生に説明したい。</p> <p>「線形数学」ではプリントを配布していないので、「ただプリントをよんでいるだけで内容が分かりにくい。」といったコメントが学生から寄せられる理由が分からない。スライドの利用がそのような印象を与えている可能性もあるので、可能な限りスライドの量を減らし、板書量を増やすようにしたい。</p>	
<p>授業改善目標</p> <p>板書の字については、急にはきれいにはできないが、少しずつ丁寧に書くように心がける。</p> <p>「工業数学」では、TBL型講義の趣旨を事前教材だけでなく、講義内でもしっかりと説明する。</p> <p>「線形数学」では講義を録画し、配信しているが、学生のコメントを見ると十分に活用されていないと思われるので、活用を促すような方策を考えたい。</p>	

(出典：ポートフォリオ学習支援統合システムの授業点検・改善報告書画面)

資料 8-1-②-B： 授業評価結果を教育の質の向上に結びつけた事例

科目名	内容
基礎解析学 I、基礎解析学 II	毎週、具体的に予習宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。また、TBL型の講義にし、グループワーク形式で課題に取り組み、学生に発表させた後に教員が解説することにより、その場で理解が深まるような配慮をした。
工業数学 I	1 年次後期科目「基礎解析学 I・II」で試験的に取り入れた TBL 型講義に関するアンケートを実施したところ、65%の学生が TBL 型を希望し、一斉授業と TBL のどちらでもよい学生を合わせると 89%であったため、2 年次前期科目「工業数学 I」を TBL に基づく反転授業で行うことにした。

基礎彫刻	開講期間中に2作品制作させ、前作と後作の作品写真を撮影し、最後に比較することで、自分の上達度を実感させ、次なる意欲へつなげる工夫をした。
初等家庭科教育法Ⅱ	2010年度の学生評価の結果、予習・復習の時間が少なかったので、予習課題と復習課題をそれぞれ3回ずつ設定した。
機械力学Ⅰ	前回の授業評価結果に基づき、講義資料記載方法・学生への情報提供方法・自主学习のための課題設定などを改善した。
波動と電磁気	学生の自宅学習の時間が少ないことが授業評価でわかったので、授業で用いたパワーポイントのファイルを受講生に提供し、毎回の復習に便宜を図った。また、毎回、小テストを実施し、復習を促した。
改善事例	改善事例に繋がった授業アンケート結果等の内容
医学科カリキュラム改訂 2年次の科目を一部3年次に移行	授業評価アンケートやチューターを通しての情報。また、別に医学科3、4年生に対しアンケート実施の結果、2年次のフェーズⅡが過密であるとの意見が多数。
授業評価アンケートに基づく学生の総合的満足度は確実に上昇傾向にあり、平成24年度の集計では必修・選択を含めた70の科目のうち、69科目で4.0以上、52科目で4.5以上という非常に高い満足度になっている。	学生による授業評価アンケートの結果を参考に、教科主任および授業担当者による丁寧な評価が教科ごとに実施され、その結果をもとに次年度の授業内容や教授方法を改善する取り組みが継続的に行われている。毎年9月に前年度のフェイスごとのチェアパーソンが集まり、次年度に向けて実際のカリキュラム作成や学習環境の充実が計画的に図られており、学生の理解や満足度の高さに反映されている。看護学科では、ほぼ4年ごとのメジャーなカリキュラム改訂と1-2年ごとのマイナーな改訂が行われており、その際にこのチェアパーソン会議での授業評価アンケート結果をもとにした討論結果が参考にされている。

(出典：教育質保証専門委員会教育改善事例報告、授業点検改善報告書、平成22～26年度評価基礎情報データ E6)

資料 8-1-②-C： 学生の意見を教育の質の向上に結びつけた事例（例示）

会議等名称	学生からの意見・要望など	意見を基にした改善事例
医学部教育委員会	PBL 室を自己学習に使用したい。	PBL 学習室の利用方法を見直した。
理工学部・数理科学科	講義の選択がわからない	履修する科目を分かりやすくし、未開講の講義を少なくした。特に、線形代数学科目が比較的易しいということに対応して、代数基礎を早めに導入した。
理工学部・機械システム工学科	微分積分学Ⅰ・Ⅱ、工業力学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学の単位を修得できなかった学生を対象とした卒業要件単位に含めない「機械工学基礎演習」5科目を、2年次科目として開講していたが、しばしば新入生からも補習的科目として履修したいという意見が聞かれた。	2014年度から、「機械工学基礎演習」5科目を1年次科目として設定して開講し、補習的授業として履修を希望する新入生にも対応できるようにした。
文化教育学部 教務委員会	「学生による授業評価アンケート」、ならびに学生との面談において資格に関する要望があった。	教員免許状等資格が取得しやすくするために、授業科目を削除整理を行った。また、時間割を整備して博物館の学芸員の資格が取りやすいように授業科目、カリキュラムを整備した。

(出典：教育質保証専門委員会教育改善事例報告)

資料 8-1-②-D: 「佐賀大学医学部教育委員会の学生委員に関する申合せ」および「医学部代議員規程」
(抜粋)

「佐賀大学医学部教育委員会の学生委員に関する申合せ」および医学部代議員規程抜粋

佐賀大学医学部教育委員会の学生委員に関する申合せ

平成 25 年 12 月 4 日
教 育 委 員 会 決 定

(趣旨)

第 1 条 佐賀大学医学部代議員規程（平成 17 年 2 月 17 日制定。以下「規程」という。）第 7 条により設置された
専門委員会である佐賀大学医学部教育委員会（以下「教育委員会」という。）の学生委員に関し、必要な事項を
定めるものとする。

(学生委員の条件)

第 2 条 教育委員会の学生委員は、次の各号に掲げる学生をもって充てる。

- (1) 医学科 3 年生又は 4 年生 若干人
- (2) 看護学科 2 年生又は 3 年生 若干人
- (3) その他教育委員会委員長が必要と認めた学生

(選出方法)

第 3 条 前条の学生委員は、教育委員会委員長が推薦し、教育委員会の議を経て、教授会に附議するものとする。

医学部代議員規程抜粋

<p>教育委員会</p>	<p>副医学部長（委員長） （教育担当） 医学科長 看護学科長 教 員 若干人 学 生 若干人 学生サービス課長</p> <p>※審議事項中，3，4，6 については，構成員から学 生委員を除く。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の編成に関すること。 2 教育内容及び教育方法等の改善に関するこ と。 3 学生の身分に関すること。 4 学生の厚生及び補導に関すること。 5 学生の自治活動及び学生団体に関すること。 6 学生チューターに関すること。 7 その他教育に関すること。 	<p>学生サービ ス課</p>
--------------	---	--	---------------------

別添資料 8-1-②-1：佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書（平成 24 年度）

別添資料 8-1-②-2：全学教育機構教養教育カリキュラム案への学部のご意見に対する回答

【分析結果とその根拠理由】

「学生による授業評価」やその他のアンケート調査、チューター面談等によって、学生からの意見聴取を行っており、学生からの授業評価結果を受けて各授業担当教員は授業点検・改善報告書を作成し、学生の意見を教育の質の改善・向上に活かしている。また、平成26年度から医学部では、教育委員会に学生が委員として加わり、教育に学生の意見を反映させている。教職員からの意見は、主に各種委員会や会議において聴取し、必要に応じて当該組織が全学にパブリックコメントを求め、組織的な教育改善に活かされている。

これらのことから、大学の構成員（教職員及び学生）の意見聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

観点 8-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

学生の保護者からの意見は後援会や保護者面談（別添資料 8-1-③-1）から聴取しており、卒業生・修了生については同窓会を通じて意見聴取を図っている（別添資料 8-1-③-2）。これらの意見に基づき、理工学部・工学系研究科では、キャリアデザインのためのスタートアップセミナー（別添資料 8-1-③-3）、就職懇談会（別添資料 8-1-③-4）、3年次生と博士前期課程1年生を対象としたTOEIC-IPテストを実施している（別添資料 8-1-③-5）。また、平成27年3～5月にかけて「卒業・修了者アンケート」を全学的に実施し、これらの結果は教育改善に役立つ予定である（資料 6-2-②-A【再掲】）。

就職先関係者からは、各部局の就職委員会や教務委員会等が中心となり、卒業（修了）生が身に付けた知識、技術、外国語能力、適応性など、教育活動の状況に関する意見を、企業訪問（別添資料 8-1-③-6）、企業アンケート（資料 6-2-②-C【再掲】、別添資料 6-2-②-2【再掲】）、主要な就職先病院等を対象としたアンケート（別添資料 8-1-③-7）等により聴取し、教育の質の改善、向上に結び付けている。理工学部知能情報システム学科では文書作成・プレゼンテーション能力を向上させる取り組み（資料 8-1-③-A、別添資料 8-1-③-8）、医学部では医学英語教育に関するカリキュラムや臨床実習カリキュラムなどの改善がある（別添資料 8-1-③-9）。

高校関係者からは、アドミッションセンターが中心となって行っている高校訪問ヒアリング（資料 8-1-③-B、別添資料 8-1-③-10）、佐賀県内の商業高校校長会との連絡会（別添資料 8-1-③-11）、県内工業系高等学校長並びに進路担当者との懇談会（別添資料 8-1-③-12）などにより意見聴取を行っており、入試改善に活かしている。理工学部の入試では、平成25年度入試より後期日程に個別学力検査を課すこととした。

経営協議会学外委員等の学外者から聴取した意見（参照資料 8-1-③-7）は、佐賀大学学生海外派遣奨励費の創設（参照資料 8-1-③-1）、全学的なTOEIC-IPテストの導入とその結果に基づく英語の能力別クラス編成（別添資料 5-2-④-1【再掲】）、芸術地域デザイン学部の設置計画や理工学部の個別学力検査への英語の追加などに反映されている。

そのほか、日本技術者教育認定機構（JABEE）によるカリキュラムの外部評価（別添資料 8-1-③-13）等により意見を聴取し、教育の質の改善、向上に結び付けている。

資料 8-1-③-A： 知能情報システム学科「アンケート結果に基づいた教育改善内容の報告」(抜粋)

アンケート結果にもとづいた本学科教育改善内容のご報告

拝啓

平素は本学科卒業生の就職等に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2010 年 1 月、皆様に教育アンケートを依頼したところ、おかげさまで 43 社より回答がございました。ご協力いただき誠にありがとうございました。アンケートの集計は 2010 年度前学期に終え、2010 年度後学期から学科カリキュラムへ反映させておりますので、以下の通りご報告いたします。

○ アンケート結果の概要
アンケートの集計結果（詳細は別紙）によると、前回のアンケート（2007 年度末実施）の結果と同様に、文書作成・プレゼンテーション能力に不満を抱いている企業が依然として多いことがわかりました。

○ 2008 年度から実施済の教育改善内容
本学科では、前回のアンケートをもとに、以下の取り組みを 2008 年度より実施してきました。

前回のアンケート結果をもとにした教育改善内容（2008 年度より実施）

開講時期	科目名	内容
1 年次前期	大学入門科目	受講者を 10 グループにわけ、担当教員が提示したキーワードをもとに調べ学習を実施する。そして、その内容を文書としてまとめ、担当教員に報告する。
1 年次後期	技術文書作成	受講者全員がプレゼンテーションを行う。また、発表用原稿（レジュメ）も作成する。
2 年次後期	ハードウェア実験	ブースを訪れた学生に対して、各自が実験内容の説明を行う。
3 年次前期	システム開発実験	実験内容について発表会を実施する。受講者全員が必ず発表する。
3 年次後期	シミュレーション実験	実験内容について発表会を実施する。受講者全員が必ず発表する。
4 年次前期	卒業研究	9 月末～10 月上旬頃に学科全体で中間発表会を開催する。発表用スライドとレジュメの作成を義務付ける。
4 年次後期	卒業研究	2 月上旬に、卒業研究発表会を実施する。発表用スライドとレジュメの作成を義務付ける。

※ 色づけされている部分が、2008 年度から新しく追加された取り組み

効果については、上記取り組みを全て受けた 2011 年度卒業生の状況をみて確認する予定です。

(出典：理工学部知能情報システム学科 企業等向け報告資料)

資料 8-1-③-B： 高校ヒアリングの調査結果 (抜粋)

1.4. 調査結果

1.4.1. 後期日程に個別試験が課されていないことについて

「課して欲しい」「どちらとも言えない」「満足している」で回答を得たところ、「課して欲しい」という意見が 76% を占めた。

表 3. 後期日程個別試験が課されていないことについて

課して欲しい	58 校 (76%)
どちらとも言えない	15 校 (20%)
満足している	3 校 (4%)

(出典：後期日程試験に関する報告書 (理工学部) アドミッションセンター (平成 22 年 8 月))

別添資料 8-1-③-1：保護者との面談に関する資料（文化教育学部・工学系研究科）
 別添資料 8-1-③-2：同窓会との意見交換会
 別添資料 8-1-③-3：スタートアップセミナー案内・報告（理工学部同窓会会報「菱の実」号外、平成 26(2014)年 1月 1日）
 別添資料 8-1-③-4：就職懇談会依頼文・開催案内（例示）
 別添資料 8-1-③-5：平成 26 年度理工学部後援会報告
 別添資料 8-1-③-6：企業訪問について（中間報告）
 別添資料 8-1-③-7：医学部就職先アンケート調査（抜粋）
 別添資料 8-1-③-8：理工学部知能情報システム学科企業アンケート
 別添資料 8-1-③-9：就職先関係者アンケート調査（医学部、平成 25 年度医学部及び医学研究科自己点検・評価書より抜粋）
 別添資料 8-1-③-10：後期日程試験に関する報告書（理工学部）アドミッションセンター
 別添資料 8-1-③-11：佐賀県内の商業高校校長会との連絡会に関する資料（経済学部）
 別添資料 8-1-③-12：県内工業系高等学校長並びに進路担当者との懇談会（理工学部）
 別添資料 8-1-③-13：JABEE 最終審査報告書（理工学部）

参照資料 8-1-③-ア：経営協議会学外委員等からの意見、指摘等に対する対応状況（検証）
<http://www.saga-u.ac.jp/>) に入り「大学案内」の「経営協議会学外委員からの意見対応」をクリック
 参照資料 8-1-③-イ：国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター「海外留学のための奨学金」
<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/abroad/scholarship.html>

【分析結果とその根拠理由】

就職先関係者からの意見聴取とともに、同窓会、後援会、経営協議会学外者委員等との意見聴取を継続的に行っており、これらの意見を TOEIC-IP テストの全学的な導入とその結果に基づく英語の能力別クラス編成、入試改善、佐賀大学学生海外派遣奨励費の創設等に結び付けるなど、具体的に活用している。これらのことから、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

観点 8-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点に係る状況】

教育委員会では、ファカルティ・ディベロップメント(FD)を、大学全体のマクロレベル、研究科・学部・学科単位のみドルレベル、教員個人レベルのミクロレベルとして明文化している（別添資料 8-2-①-1）。

マクロレベルのFD活動としては、教育委員会及び全学教育機構高等教育開発室が連携して「佐賀大学FD・SDフォーラム」（別添資料 8-2-①-2）、新任教員研修、教職員のための英語特別講座、佐賀大学スキルアップセミナー、標準版ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（TPWS）、簡易版ティーチング・ポートフォリオ作成ミニワーク（簡易版TPミニワーク）などを開催している（別添資料 8-2-①-3）。

佐賀大学スキルアップセミナーでは、教員の教授法スキルが向上できるよう具体的な教育方法の改善に関するテーマについて年 2 回程度実施している（別添資料 8-2-①-4）。

ティーチング・ポートフォリオ（TP）を教育に関する内部質保証システムとして位置付け、全学的導入へ向けた実施計画を策定し、平成 28 年度には全教員が簡易版TPを作成することとしている（別添資料 8-2-①-5）。

簡易版TPミニワークは、平成 23 年 9 月から平成 27 年 3 月にかけて、本庄キャンパスで 22 回、鍋島キャンパスで 5 回開催され、392 人の教員が簡易版TPを作成している（資料 8-2-①-A）。簡易版TPミニワークのアンケートによれば、作成した約 80%の教員が「教育改善に役立ちそうだ」と回答している（資料 8-2-①-B、別添資料 8-2-①-6）。また、TPWSは平成 21 年 9 月から平成 27 年 3 月にかけて 12 回開催され、学内教員 57 人、

学外教員 24 人が標準版 T P を作成している。学内教員が、学外教員と共に標準版 T P を作成することにより、教育に対する多様な価値観に触れられるように配慮している。本学が参加した全国的な T P に関するアンケート調査 (別添資料 8-2-①-7) でも、T P に関する総合的な満足度は高く、教員の資質向上に繋がっている。さらに、本学では、標準版 T P 及び簡易版 T P をオンライン公開し (参照資料 8-2-①-7、別添資料 8-2-①-8)、教員個人がさらに教育の資質向上を図れるよう支援している。ミドルレベルの F D 活動としては、各部局等の F D 委員会が主催する F D 講演会・研修会等があり、多くの改善事例が挙げられている (資料 8-2-①-C~E)。平成 25 年度には、87%の教員が少なくとも 1 回は F D 研修会に参加している (別添資料 8-2-①-9)。

マイクロレベルの F D 活動としては、F D 研修会への参加、教員個人が行っている改善活動、授業点検改善報告書や標準版・簡易版 T P 作成を通じた教育改善があり、これらに基づく改善事例も挙げられている (資料 8-1-②-B 【再掲】)。また、さらなる教育改善に結びつくように、「佐賀大学教育功績等表彰規程」及び「国立大学法人佐賀大学教育功績等表彰者推薦基準」(別添資料 8-2-①-10) に基づき、授業実践において優れた成果を上げた教員を表彰 (資料 8-2-①-F) し、受賞者との座談会記録を学内外に公表している (参照資料 8-2-①-1)。

資料 8-2-①-A : 簡易版TP作成状況

平成26年度 簡易版TP 入力状況 (2015.4.21現在)					
研究科/学部	学科・課程等名	教員数 (2014.11.1現在)	ワークショップ 受講者数	簡易版TP作成 者	作成率(%)
文化教育学部	文化教育学部	94	73	60	64
	附属教育実践総合センター	4(1)	1(1)	1(1)	25
	小計	98(1)	74(1)	61(1)	62
経済学部	経済学科	17	14	11	65
	経営学科	12	11	9	75
	経済法学科	9	9	9	100
	小計	39	33	29	74
医学部	医学科*	128	94	81	63
	<寄附講座>	<15>	<6>	<4>	27
	看護学科	32	26	19	59
	地域医療科学教育研究センター	5	3	0	0
	<附属病院>	<125>	<76>	<63>	50
	小計	165	123	100	61
工学系研究科	数理科学専攻	12	9	9	75
	物理科学専攻	13	13	13	100
	知能情報システム学専攻	16(1)	12	12	75
	循環物質化学専攻	21	20	19	90
	機械システム工学専攻	19	17	17	89
	電気電子工学専攻	17	16	15	88
	都市工学専攻	20	18	18	90
	先端融合工学専攻	20	19	19	95
	小計	138(1)	124	122	88
農学部	応用生物科学科	15	14	14	93
	生物環境科学科	18	18	16	89
	生命機能科学科	14	14	13	93
	アグリ創生教育研究センター	7	7	7	100
	農学研究科	(1)			
	小計	54(1)	53	50	93
全学教育機構	小計	20	18	18	90
センター等	小計	43	15	12	28
全体	合計	557	440	392	70

【注】()は、特任で外数
* 寄附講座、病院、助手、特任は集計対象外

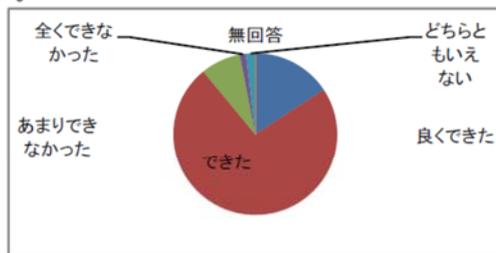
(出典 全学教育機構資料)

資料 8-2-①-B : 簡易版TPミニワーク・アンケート抜粋

ティーチング・ポートフォリオ ミニワークアンケート結果(医学)

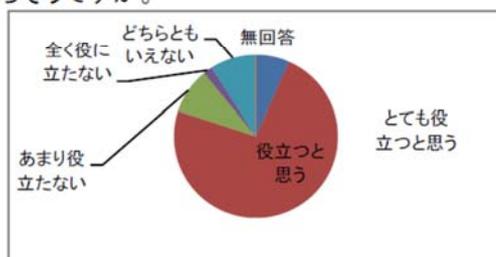
1. 教育の理念を考えることで教育に関する考え方が整理できましたか。

	度数	割合
1 良くできた	26	15.8%
2 できた	121	73.3%
3 あまりできなかった	13	7.9%
4 全くできなかった	2	1.2%
5 どちらともいえない	3	1.8%
無回答	0	0.0%
計	165	100.0%



2. 今回簡易版TPを作成したことが、授業などの教育活動の中で役立ちそうですか。

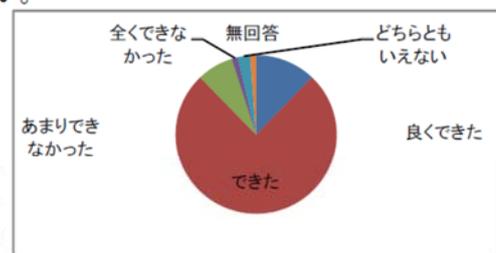
	度数	割合
1 とても役立つと思う	11	6.7%
2 役立つと思う	121	73.3%
3 あまり役立たない	15	9.1%
4 全く役に立たない	3	1.8%
5 どちらともいえない	15	9.1%
無回答	0	0.0%
計	165	100.0%



ティーチング・ポートフォリオ ミニワークアンケート結果(工学系研究科)

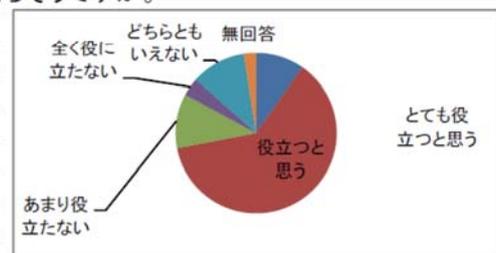
1. 教育の理念を考えることで教育に関する考え方が整理できましたか。

	度数	割合
1 良くできた	10	12.2%
2 できた	62	75.6%
3 あまりできなかった	6	7.3%
4 全くできなかった	1	1.2%
5 どちらともいえない	2	2.4%
無回答	1	1.2%
計	82	100.0%



2. 今回簡易版TPを作成したことが、授業などの教育活動の中で役立ちそうですか。

	度数	割合
1 とても役立つと思う	8	9.8%
2 役立つと思う	51	62.2%
3 あまり役立たない	9	11.0%
4 全く役に立たない	3	3.7%
5 どちらともいえない	9	11.0%
無回答	2	2.4%
計	82	100.0%



(出典 全学教育機構資料)

資料 8-2-①-C : 各部署におけるFD活動の実施状況 (平成22～26年度)

全学教育機構FD活動状況 (平成22年度～平成26年度)			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成22年度	第1回	FD・SDフォーラム 演題「(KIT) 金沢工業大学) ポートフォリオシステムの展開と展望」	49
	第2回	FD・SDフォーラム 演題「九州工業大学における学修自己評価の取組み」	49
	第3回	FD・SDフォーラム 演題「日本人大学生を対象とした日本語・英語教育」	36
平成23年度	第1回	FD・SDフォーラム 演題「大学共通科目の情報教育における現状と課題」	35
	第2回	FD・SDフォーラム 演題「SPODにおけるSDプログラムの開発と運用」	39
平成24年度	第1回	FD・SDフォーラム 演題「なぜアクティブラーニングなのか」	31
平成25年度	第1回	FD・SDフォーラム 演題「ICT活用教育支援のための情報基盤～広島大学に異動して感じたこと～」	34
	第2回	FD・SDフォーラム 演題「大学入門科目Ⅰ」の実践報告とこれから」	39
	第3回	FD・SDフォーラム 演題「大学における学術情報基盤と図書館の機能強化」	35
平成26年度	第1回	FDセミナー教育改善支援経費取組報告会「アメリカの大学との協同作業による発信型海外研修プログラムの構築」	16
	第2回	FDセミナー教育改善支援経費取組報告会「社会人基礎力育成を目的とした学生の主体的活動の支援」	16
	第3回	FDセミナー教育改善支援経費取組報告会「同窓生の学業生活と職業」	22
			401
文化教育学部FD活動状況 (平成22年度～平成26年度)			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成22年度	第1回	「文化教育学部新任教員研修会」	17
	第2回	「文化教育学部新任教員研修会」	6
	第3回	「第2回佐賀大学FD・SDフォーラム(高等教育開発センターとの合同)」	22
平成23年度	第1回	「文化教育学部新任・昇任教員研修会」	28
	第2回	「18歳人口の減少がもたらす入試の実態—文化教育学部におけるこれまでの傾向と今後の予想—」	97
平成24年度	第1回	「文化教育学部新任・昇任教員研修会」	25
	第2回	「学生とともにすすめる講義及び論文指導」	93
平成25年度	第1回	「文化教育学部新任・昇任教員研修会」	23
	第2回	「文化教育学部新任・昇任教員研修会」	26
	第3回	「佐賀大学におけるe-ラーニング機能の活用について—ライブキャンパス、WebClass、Moddleの比較—」	90
平成26年度	第1回	「文化教育学部新任・昇任教員研修会」	26
	第2回	「アクティブ・ラーニングについて」	91
			544
経済学部FD活動状況 (平成22年度～平成26年度)			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成22年度	第1回	ティーチング・ポートフォリオ	37
	第2回	ラーニング・ポートフォリオ	34
	第3回	授業におけるオンラインアンケートの利用：授業におけるITの活用について	30
	第4回	学士力について	30
	第5回	大学院教育に関する教員アンケートの結果を踏まえて	31
平成23年度	第1回	ティーチング・ポートフォリオのショートコース	20
	第2回	ラーニング・ポートフォリオ	20
平成24年度	第3回	大学院FD：2011年度の大学院教育を振り返って	15
平成25年度	第1回	ラーニング・ポートフォリオの試行について	20
	第2回	「大学入門科目Ⅰ」の実施結果と改善	29
平成26年度	第1回	経済学部作成1年次ゼミテキストの改定等について	34
	第2回	「授業についてのアンケート」をもとにした授業改善について(経済法学科)	8
	第3回	「授業についてのアンケート」をもとにした授業改善について(経済学科)	15
			20
			343
医学部FD活動状況 (平成22年度～平成26年度)			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成22年度	第1回	第18回医学・看護学教育ワークショップ「医学部における専門英語教育について」	96
	第2回	平成22年度面接者セミナー「他大学医学部入試の面接試験に関する研究事例」	97
平成23年度	第1回	第19回医学・看護学教育ワークショップ「ティーチング・ポートフォリオについて」	40
	第2回	平成23年度面接者セミナー「18歳人口の減少がもたらす入試の実態—これまでの傾向と今後の予想—」	112
平成24年度	第1回	第20回医学・看護学教育ワークショップ「医学・看護学のカリキュラム・プランニング再考」	90
	第2回	平成24年度面接者セミナー「追跡調査からみた医学部入試」	104
平成25年度	第1回	第21回医学・看護学教育ワークショップ「医学・看護学教育の潮流～我が国の医学・看護学が目指すもの～」	92
	第2回	平成25年度面接者セミナー「アドミッションポリシーからみる面接試験」	96
平成26年度	第1回	第22回医学・看護学教育ワークショップ「卒前・卒後のシームレスな医学看護学教育」	98
	第2回	平成26年度面接者セミナー「入試制度変更後の追跡調査の結果」	84
			909
工学系研究科FD活動状況 (平成22年度～平成26年度)			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成22年度	第1回	「学士課程における学習成果」	77
	第2回	ティーチングポートフォリオについて」	87
	第3回	「ラーニングポートフォリオについて」	86
平成23年度	第1回	「JABEE継続審査報告」	86
平成24年度	第1回	「ティーチング・ポートフォリオについてのパネルディスカッション」	104
	第2回	「入学前学習の取り組みとLMS」	101
平成25年度	第1回	「電気電子工学科のJABEE受審報告」	92
	第2回	「佐賀大学におけるティーチング・ポートフォリオへの取り組み」	113
平成26年度	第1回	「機械システム工学科のJABEE中間審査の受審報告」	101
	第2回	「教員の健康管理について」	88
			105
			954

農学部FD活動状況（平成23年度～平成26年度）			
実施年度	回数	実施内容	参加人数
平成23年度	第1回	農学部・農学研究科FD研修会「ティーチングポートフォリオについて」	約45
	第2回	農学部・農学研究科FD研修会「ハラスメント「思いやりのない行動」」	約45
	第1回	農学部・農学研究科FD研修会「最近の大学生をどう理解し、対応するか」	約45
平成24年度	第1回	農学部・農学研究科FD研修会「佐賀大学のFA21活動の現状と課題」	約45
	第2回	農学部・農学研究科FD研修会「最近の大学生をどう理解し、対応するか」	約45
	第3回	農学部・農学研究科FD研修会「卒論・修論教育などストレス時の学生への対応及びストレス解消法」	約45
平成25年度	第1回	農学部FD講演会「佐賀大学のFA21活動の現状及び農学部における節電対策について」	約45
	第2回	農学部・農学研究科FD研修会「この時期、学生をどのように支援し、研究の進展を促すかその取組方法について」	約45
平成26年度	第1回	農学部 FD研修会「初等教育へのeラーニング教材導入について」	15
			375

(出典：各部署のFD活動記録より作成)

資料 8-2-①-D：FD活動を教育の質の向上及び改善に結びつけた事例（科目等）

全学教育機構

対象科目等	内容
代数と離散数理	毎回の授業の演習問題を e-Learning でランダムに出題した。成績判定も、LMS による出題を自動採点で行った。過去問にも LMS で常時挑戦できるようにした。
生命科学の世界 B	毎回、講義の初めに小テストを課すことで、復習をするように仕向けると共に、学生の理解の程度を把握した。
芸術の歴史と理論（日本画について）	具体的な事例について、映像や図表と照らしながら解説した後、学生それぞれに調べる課題を与え、プレゼンテーションを通して議論を深めることで、考察力が身につくよう工夫した。

文化教育学部

対象科目等	内容
西洋画	授業で制作する作品の優秀なものを美術工芸課程のホームページで公開することで参考作品としている。
社会福祉援助技術実習	2008 年 12 月 14 日に行われた社会福祉援助技術実習担当教員講習会に参加し学んだことで、特に新カリキュラムで重視されることになった社会福祉士の倫理面に関する態度の獲得を目指すような講義とノートに関するフィードバックを行った。
地理学フィールドワーク実習	調査方法やデータの分析方法などについて、実際に野外で調査を行うフィールドワーク活動を通して、学生それぞれに細かに指導を行いながら、実践的な技術が身につくよう工夫した。
教育学研究法	明確な課題を提示した上で、ディスカッションや、テーマ別にグループ形式で調査活動などの課題に取り組みせ、学生に発表させた後に教員の解説を加え、理解が深まるよう配慮した。

経済学部

対象科目等	内容
演習（2年）	第2回経済学部FD教員会議の成果を参考にして、報告を割り当てる際の指示を詳細に行う等により受講者の積極的参加を促した。
演習（3年）	経済学部FDで得られた他のゼミナールでの試みを参考にし、学生に自主的に学習・発表ができるように働きかけた。
管理会計論	義の最後にその日の内容に関する小テストを実施し、教員が巡回し、解答をしていない学生に対して、なぜ解答できないのかどこがわからないのか等を学生から聞き、指導している。
基本統計学	授業中に例題解説のあと問題を解かせて解説している。

医学部

対象科目等	内容
臨床入門 (OSCE)	FDで評価に関する標準化を行い、共通の視点での評価を行った。
ユニット1呼吸器系	PBL実習時の進行にFDにより獲得した手技を適用した。
クリティカルケア	<ul style="list-style-type: none"> ・3e-Analyzer 双方向授業システムを用いて、講義中に学生の理解度を知り、学生のモチベーションと満足度を高めた。 ・講義終了後に提出されるミニッツペーパーに記載される学生の質問には、可能な限り次の講義の始めに回答した。
発達看護論演習 I	ペーパーペーシェントによる看護過程の展開と技術演習を行っている。グループ学習による学生間のディスカッションを重視し、全体発表会での学びの共有とフィードバックを行っている。

理工学部

対象科目等	内容
基礎解析学 I, II	SPOD2011 のプログラム「アクティブラーニングで授業改善—情報処理を実例に一」で学んだTBLを数学科目でも適用できるように修正して、反転授業を実施した。
人工知能	コミュニケーションカードを活用し、毎回授業の最後に、授業に関するアンケートや簡単な演習を行い、学生の状態の把握に努め、理解の不十分なところや学生の疑問に答えた。
建築環境工学 II	e-Learning の課題により毎回の授業の復習をさせた。また、評定者レポートの機能を利用し、課題の進捗状況を毎回授業で発表し、復習を促した。
力学C, D	LMSにおいて演習問題の出題だけでなく、毎週の自主学習の指示や、次回の予告などゴーイングシラバスの内容を記載した。

農学部

対象科目等	内容
生物資源化学	講義は全てパワーポイントで行い、スクリーン上はアニメーションなどを駆使して理解しやすくした。学生には、投影資料全てを配付した。その際、配付資料の重要箇所を空欄とし、講義中に記入させるようにした。このことにより、集中力が持続し、要点も記憶に残ると、学生からの評価は良好である。
動物遺伝育種学	WebClass を用いて授業のレジメを配信するとともに、WebClass 上で確認小テストを実施し、採点結果もネット経由でフィードバックしている。
栽培環境制御学	次回の講義で取り扱う素材に関するレポートや演習問題を毎回出題し、講義の際に学生に発表をさせる。その後、解説を行うことで講義内容への理解を深める工夫をした。
有機化学	「立体化学」は有機化学だけでなく、生化学（生物化学）に登場するアミノ酸や糖の構造を考える際にも重要な事項であり、しっかりと理解する必要がある。しかし、印刷物、教科書、スライドなどの平面を用いた説明では、三次元という構造が捉えにくい。そこで、分子模型や折り紙を講義に取り入れて、立体化学を説明している。

(出典：平成 22～26 年度評価基礎情報データ E6、教育質保証専門委員会教育改善事例報告)

資料 8-2-①-E : F D活動を教育の質の向上及び改善に結びつけた事例 (カリキュラム等)

文化教育学部	
担当組織	内容
教務委員会	教員免許状等資格が取得しやすくするために、授業科目を削除整理を行った。また、時間割を整備して博物館の学芸員の資格が取りやすいように授業科目、カリキュラムを整備した。
教育実習委員会	「教育実践フィールド演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の実施に伴い、佐賀市教育委員会および実習受け入れ校の担当者と連絡協議会を開催し、意見交換を通して、目標の確認と実習の質的向上に向けての実施体制について、共通理解を図った。
医学部	
対象科目等	内容
教育委員会	医学・看護学教育ワークショップでの講演を通して、医学英語・看護学英語の導入を行った。
教育委員会	医学・看護学教育ワークショップでの講演を通して、臨床実習カリキュラムの改変を検討した。
理工学部	
担当組織	内容
機械システム工学科	2014年度から、「機械工学基礎演習」5科目を1年次科目として設定して開講し、補習的授業として履修を希望する新入生にも対応できるようにした。
数理科学科	講義科目の整理と2年次の「代数基礎」の導入。
電気電子工学科	JABEE認定審査における指摘を「卒業研究」、「電気電子工学実験D」、「大学入門科目」、「技術者倫理」のシラバスに反映した。
農学部	
対象科目等	内容
学部運営委員会	「農業版MOT」、「就職ガイダンス」、「キャリアデザイン講座」、「農学部シンポジウム」の機会を設置し、社会で活躍する卒業生の情報を在学生へ向けて積極的に伝える活動を実施している。
教育委員会	新年度開講科目のシラバス入力に合わせて、全科目の記載内容を確認点検し、講義内容の情報提供や成績評価基準の妥当性を検証する

(出典：教育質保証専門委員会教育改善事例報告)

資料 8-2-①-F : 「教育功績等表彰者推薦基準」抜粋・授業実践表彰者数

(授業実践表彰対象者)				
第3条 規程第2条第1項第2号に定める「本学における授業の実践で特に優れた成果のあった本学の常勤の大学教員(助手を除く。)、契約職員である教育職員(助手を除く。)&及び非常勤講師」とは、次の各号のいずれかに該当する者とする。				
(1) 学生又は卒業生により特に高い評価を受けた者				
(2) 学生の優れた研究発表等の成果に結びつく教育をした者				
(3) 教育の成果として、学生の免許その他の資格の取得に大きな寄与をした者				
(4) 教育の成果として、学生の就職活動又は進学において、大きな貢献をした者				
(5) 公開講座、研修会その他正規課程の学生以外を対象とする教育活動において、大きな貢献をした者				
(6) 学生に対する学修支援等の活動を行い、大きな成果があった者				
(7) 日々の教育実践において教材、教育方法等を工夫し、学生の学力、問題解決能力の向上等を図り、優れた教育効果を上げた者				
(出典：国立大学法人佐賀大学教育功績等表彰者推薦基準)				
平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
6	6	6	4	6
(出典：事務局資料)				

別添資料 8-2-①-1：ファカルティ・ディベロップメント「FD」の取組みについて
 別添資料 8-2-①-2：佐賀大学FD・SDフォーラムの周知用ポスター（例示）
 別添資料 8-2-①-3：ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ案内、簡易版TPミニワーク開催案内
 別添資料 8-2-①-4：スキルアップセミナー開催状況
 別添資料 8-2-①-5：佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ実施要項、佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ実施要領、佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ実施計画
 別添資料 8-2-①-6：簡易版TPミニワーク資料およびアンケート結果
 別添資料 8-2-①-7：標準版ティーチング・ポートフォリオに関する教員アンケート結果
 別添資料 8-2-①-8：佐賀大学全学教育機構高等教育開発室ティーチング・ポートフォリオ ウェブページ

参照資料 8-2-①-ア：ティーチング・ポートフォリオ検索ページ（学内限定）
 (<http://www.saga-u.ac.jp/>) に入り「在学生の方へ」の「ティーチング・ポートフォリオ検索」をクリック
 参照資料 8-2-①-イ：「教育功績等表彰者の座談会記録」 (<http://www.oge.saga-u.ac.jp/development03.html>)

【分析結果とその根拠理由】

教育委員会、全学教育機構や各部局のFDを担当する委員会が、標準版並びに簡易版TPの作成、講演会・研修会、セミナーなど多様な方法でFD活動を実施し、組織的な教育改善や個々の教員の授業改善等に役立っている。これらのことから、FDが適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点 8-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

事務職員及び技術職員については、これまで以上に学生や地域社会に対するサービスを提供するという意識を持ち、活動の専門性、実行のスピード等を持って業務にあたることを踏まえて「事務職員等の研修制度の基本的方針」(別添資料 9-2-④-1【後掲】)を定め、階層別研修の範囲の拡大及び専門能力育成の充実といった方針を掲げて研修を実施しており、創造力と総合的な視野を持った人材の育成を図っている。

また、事務局の様々な勉強会、国立大学教養教育実施組織会議及び事務連絡協議会、大学コンソーシアム佐賀(参照資料 8-2-②-ア)、九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-Links)(参照資料 8-2-②-イ)を通して、教育支援者や教育補助者としての質の向上を図っている(別添資料 8-2-②-1)。特に、大学コンソーシアム佐賀では、職員としてのスキルアップとキャリア支援のために、スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ(SPWS)を継続して開催しており、平成24～26年度の間に17人の事務職員がスタッフ・ポートフォリオを作成している(別添資料 8-2-②-2)。SPWSのアンケートでは、職員の教育支援者としての資質向上に役立っていることが示されている(別添資料 8-2-②-3)。また、技術職員は、技術部による技術報告会を通じて、教育補助者としての資質向上を図っている(参照資料 8-2-②-ウ)。

さらに、ティーチング・アシスタント(TA)については、「ティーチング・アシスタント運用要領」(別添資料 8-2-②-4)に基づきTAの教育支援者としての資質向上を図っている(資料 8-2-②-A)。

資料 8-2-②-A : TA事前研修 (例示)

部局名	事前研修及び指導内容
教育学研究科	資料及び実習機械を使用し実習方法や実習器具の操作を事前に確認させ、実習目的について、理解させた。
経済学研究科	事前に各教員から指導を受け、TAの教育上の位置づけや作業の手順並びに守秘義務について理解させた。
医学系研究科	指導方法や指導上の留意点に関する打合せ。
工学系研究科	授業の前日までに毎回の授業前に、当日の講義課題を渡して予習をするように指示し、内容に不明な点があれば、その意図を具体的に説明した。また、グループワークにおける学生との関わり方について指導を行った。
農学研究科	教育基本理念及び人材育成目標に基づき、よりよい教育現場の構築と教育成果の向上を目的として事前研修を行った。
全学教育機構	講義内容及び講義で行う演習問題の解説並びにグループワークの進め方や内容を説明し、グループワークを進める上でのアドバイス等の指導を行った。

(出典：平成 22～26 年度後学期ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書)

別添資料 8-2-②-1：平成 22～26 年度SD研修参加・実施状況

別添資料 8-2-②-2：平成 24～26 年度大学コンソーシアム佐賀SD合宿研修会参加人数

別添資料 8-2-②-3：平成 26 年度SD合宿研修会アンケート (抜粋)

別添資料 8-2-②-4：ティーチング・アシスタント運用要領

参照資料 8-2-②-ア：大学コンソーシアム佐賀 (<http://www.saga-cu.jp/>)参照資料 8-2-②-イ：九州地域大学教育改善FD・SD ネットワーク (<http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/>)参照資料 8-2-②-ウ：技術報告会資料(<http://tech.se.saga-u.ac.jp/gakugai/kenshuu/kenshu01.html>)

【分析結果とその根拠理由】

事務・技術職員は、各種研修やセミナー、スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ等を通じて、教育支援者や教育補助者としての資質向上を図っている。また、TAの教育補助者としての資質向上を図っている。

これらのことから、教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ポートフォリオ学習支援統合システムを構築し、教育活動及び学習成果に関するデータを収集している。
- IR室など全学的な支援体制により、教育に関するデータの収集及び分析を行っている。
- 授業担当者は、「ポートフォリオ学習支援統合システム」を通して、学生による授業評価結果に基づく授業点検改善報告書を作成し、授業改善に役立っている。
- 医学部教育委員会では学生が委員として加わり、学生の意見を反映させている。
- 教育に関する内部質保証システムの一環として、教育への取り組みの検証と改善の支援を目的にティーチング・ポートフォリオ (TP) を全学的に導入し、平成 28 年度には全教員が簡易版TPを作成する予定である。
- 職員の教育支援者・教育補助者としての資質向上を図るために、技術部による報告会や大学コンソーシアム

佐賀と連携したスタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップなどを開催している。

【改善を要する点】

- ティーチング・ポートフォリオ (TP)、ラーニング・ポートフォリオ (LP)、スタッフ・ポートフォリオ (SP) などを活用した更なる組織的な教育改善を推進していくことが課題である。

